

た の し り し つ げん
② 田之士里湿原

所在地：豊田市御内町

昭和50年1月31日指定

—中間湿原特有の生態系—

面積 (ha)

特別地区	普通地区	合計
0.58	2.20	2.78

もともと田之士里は「田の尻」という意味で、稲が栽培できる尻、すなわち限界の地ということから名づけられたものです。

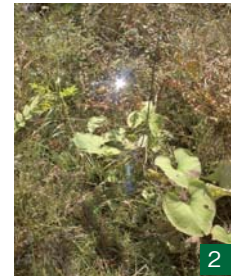
愛知県には、湿地・湿原が多数分布しています。田之士里湿原は、比較的標高が高く夏でも冷涼な地域にあり、湿地・湿原の種類では、泥炭湿原の中でも中間湿原に分類されます。

泥炭湿原の多くは、農地開発等により消滅したり、規模が縮小するなどして、小規模なものが多いことから、森林化への遷移が懸念されています。

このような場所に特徴的な植物で、ハンゴンソウやゴマナ、アヤメ科の原種ノハナショウブなどを見ることができます。

泥炭湿原は、泥炭の蓄積が進み涵養する水位が低下する過程により低層湿原、中層湿原、高層湿原に区分されます。

低層湿原は地下水、高層湿原は雨により涵養され、中間湿原は移行段階にある湿原です。



1：全景 2：流入部とオタカラコウ
 3：ウメバチソウ 4：保全地域看板
 5：コウチハカエデ

こ まき おお やま
③ 小牧大山

所在地：小牧市大字大山

昭和51年10月15日指定

—典型的な暖帯性植生シイ・カシ類の常緑広葉樹林—

面積 (ha)

特別地区	普通地区	合計
9.32	36.74	46.06

小牧大山は尾張東部丘陵に位置しており、山麓の江岸寺、中腹の稚児神社、大山廃寺塔跡を連ねる谷間は、日本の典型的な暖帯性植生である、シイ・カシ類の常緑広葉樹林が安定して生育しています。どんぐりの成るシイ・カシの他、ツバキやサカキなど常緑で葉に光沢のある小型の葉を持った樹木から成っています。

このような身近な環境ではありますが、都市化や人工樹林化が進んだ今となっては、神社や寺院の社叢として断片的に残されるのみの状態となっており、愛知県内に残された数少ない照葉樹林のひとつです。

大山廃寺跡は、白鳳時代に創建され室町時代まで続いた山岳寺跡で、国指定史跡（昭和4年指定）です。寺域は広く、山林の中に堂宇が建てられたと見られる多数の平地が分布しており、信仰の地としてこの場所が守られてきたことが伺えます。



1：全景
 2：ツブラジイ林
 3：大山廃寺塔跡